

## 第51回評価監視委員会の開催について

第51回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	平成29年2月21日(火) 15:00～17:00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 (五十音順)	木下 誠也(日本大学生産工学部土木工学科 教授) 佐藤 淳(公認会計士) 佐野 洋(元 会計検査院 事務総長官房審議官) 白戸 智(株三菱総合研究所 政策・経済研究センター 主席研究員) 寺川 祐一(委員長(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会専務理事))	
	第一土木調査部 原田 邦裕、川野辺 豊、柴尾 治、大山 憲英 共通資材調査部 大谷 忠広、馬場 秀彦、南 昌宏、道城 淳 調査統括部 鈴木 昌樹、後藤 裕 監査審査室 渡部 利也、葦浦 正己	
審議案件	案 件	備 考
	(定期調査) 遮音壁(規格統一型) 全国価格	「建設物価」平成28年12月号243頁掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(受託調査) 仮設防護柵ガードレール自在R連続基礎ブロック 神奈川県海老名市・厚木市	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・質問、それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について 遮音壁（規格統一型） （全国価格）</p> <p>○ 遮音板として使用される高耐候性めっき鋼板（K27）と溶融亜鉛めっき鋼板（Z27）の設置割合はどのくらいか。</p> <p>○ 高耐候性めっき鋼板製の遮音壁は、一般道でも使われているのか。</p> <p>○ 高耐候性めっき鋼板（K27）の方が耐久性があると言いつながら、溶融亜鉛めっき鋼板（Z27）が使われているのはなぜか。</p> <p>○ 納入時の運搬費は遮音壁の掲載価格に含まれているのか。</p> <p>○ 取引数量がまとまってくると安くなることはあるのか。</p> <p>○ 掲載価格は標準的な取引数量での価格ということか。</p> <p>○ 遮音壁には海外製品は入っていないのか。</p> <p>○ 遮音壁は、高速道路会社などの道路管理者が直接購入することが多いのか。</p> <p>○ 調査方法は面接調査と電話調査になっているが、その区別はどうしているのか。</p>	<p>○ 高速道路では、高耐候性めっき鋼板（K27）の設置を標準としていることから、70%ぐらいを占めている。</p> <p>○ 最近まで一般道では使用されていなかったが、高速道路に倣って高耐候性めっき鋼板製の遮音壁が採用され始めている。</p> <p>○ 地方公共団体では、価格面の安さから溶融亜鉛めっき鋼板（Z27）を標準としている場合が多いからである。</p> <p>○ 掲載価格には運搬費を含んでいる。</p> <p>○ 安くなることもあると聞いている。</p> <p>○ 「建設物価」の調査条件にあるとおり、500㎡程度の取引数量で調査した価格である。</p> <p>○ 今のところ海外製品は入ってきていない。</p> <p>○ いいえ、工事を受注した施工業者が購入するケースが多い。しかし、道路管理者である発注者が直接購入するケースもあると聞いている。</p> <p>○ 基本は面接調査を行っている。しかし、調査先と都合が合わなかった場合や遠方の場合などは電話調査にしている。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について</p> <p>仮設防護柵ガードレール自在R連続基礎ブロック (神奈川県海老名市・厚木市)</p> <p>○ 仮設ということは、最終的には撤去をするということか。</p> <p>○ 自在R連続基礎ブロックは、他現場で流用は可能なのか。</p> <p>○ この自在R連続基礎ブロックは、施工業者ではなくて高速道路会社が購入するのか。</p> <p>○ 自動車衝突した程度ではビクともしないのか。</p> <p>○ 中古市場のようなものはないのか。</p> <p>○ 今回、決定価格を最低価格ではなく、最頻値とした理由は何か。</p> <p>○ この自在R連続基礎ブロックには、競合製品はないのか。</p> <p>○ 競合製品が出てこない理由は何か。</p> <p>○ 価格が変動する可能性があるから調査依頼があるのか。</p> <p>○ 「建設物価」に掲載になるような製品ではないのか。</p>	<p>○ 工事期間内に供用されるため、工事が終われば撤去されることになる。</p> <p>○ 高速道路会社が自社のヤードなどで保管し、他の現場で使用する場合がある。</p> <p>○ いいえ、工事を受注した施工業者が購入する。</p> <p>○ 通常、自動車が衝突しても多少ズレる程度である。</p> <p>○ 主要メーカーに確認したが、リースは行っていないこと、また、発注者が資産として受け入れた後は二次利用をしていることから、中古市場はないと思われる。</p> <p>○ 価格の決定方法は最頻値を基本としている。また、市場における各社の占有率なども勘案し、総合的に判断している。</p> <p>○ 類似製品はあるが、競合製品はない。</p> <p>○ 先行メーカーとして市場に認識され、且つNETISに登録されていることが大きいと思われる。</p> <p>○ 時期であったり、使用数量などの条件で価格が変動する可能性があるためである。</p> <p>○ 現段階では、それほど調査頻度が高くないため掲載は考えていない。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○ 次回評価監視委員会は、平成29年6月中旬～下旬に開催予定。</p>	